

9月9日は「救急の日」



毎年9月9日は「救急の日」。
救急の日を含む1週間を「救急医療週間」として
います。

◇ご自身や大切な人の命を守るため、応急手当
を覚えましょう！

消防署では、年間を通じて定期的に救命講習
を行っています。ぜひこの機会に受講してみたい
いかがですか。

※QRコードから救
命講習予定表を
閲覧できます。



問 知多中部広域事務組合消防本部
救急課 ☎21-1492

◇救急車の適正な利用にご協力をお願いします。

119番通報を受けると、最も近い救急車が出動し
ます。しかし、救急要請が集中・増加し、近くの救急車
が出動してしまうと、遠くの救急車が出動するため、
到着までの時間が遅くなってしまいます。緊急性の
ない救急要請が減少すれば、救急
車が必要な傷病者のもとへ少しでも早く到着することが
できます。

限りある救急車、適正な利用に
ついてご理解とご協力をお願いし
ます。



～あなたの今と未来を守る～

夕暮れ時の運転に気をつけましょう

秋は日没時間が日増しに早くなり、運転手から歩行
者や自転車の動きが見えづらくなる夕暮れ時と仕事や
学校からの帰宅時間が重なるため、交通事故の危険性
が高まります。

9月21日(木)～30日(土)は、秋の全国交通安全運動
の実施期間です。交通ルールを守り、思いやり運転で
交通事故をなくしましょう。



市民一斉交通安全街頭大監視

時 9月26日(火) 概ね7時30分～8時30分
※時間は目安のため、天候やご都合に合わ
せて短縮可能です。

場 主要交差点・通学(園)路・事業所前等

問 防災安全課 ☎84-0626

ごん吉くんレポート ～南吉よもやま話～

第68回 祭りと母



2023年は新美南吉生誕110年

「第九回はんだ山車まつり」まであと2か月。待ち遠しいですね。祭りが近づくと自然に心が浮き立ってくるのは、半田市民の性でしょうか。これは新美南吉も例外ではありません。

南吉にとって一番身近な祭りは、岩滑の祭礼でした。亡くなる2か月前に書いた童話「狐」は、岩滑新田の子どもたちが岩滑本郷の夜の祭りを見に行くところから始まり、人形三番叟や神子舞の様子が詳しく描かれています。

岩滑新田の祭礼も南吉とゆかりがあります。平井組に伝わる史料には、大正5年4月に平井組で初めて山車を曳き回した際の山本が、南吉の実母の弟である新美謙次(治)郎だったと記されています。この時の山車は、他地区の中古を購入したものだったため、平井組では早くも大正7年に山車を新調しており、翌年には畳屋だった南吉の父が山車の中に敷く畳を作ったことも記録されています。

現在、岩滑新田に山本の制度はありませんが、祭りを司る山本となるのは名誉であり、新美家にとっては家を挙げての盛事でした。嫁に出たりぬも息子の正八(南吉)を連れて手伝いに来たことでしょう。りぬは翌年11月に病で亡くなるため、この時健康で来られたか確証はありませんが、もし親子で来ていたとしたら、まだ3歳足らずの幼い南吉にとって、ご馳走が振る舞われ、大勢の人が祝いに集まる母の里での体験は、鮮烈な記憶となったことでしょう。

祭りを舞台にした「狐」は一方で母の愛をテーマにした童話でもあります。この祭りと母のモチーフは13歳で書いた最初期の短編「月と横笛」にも見られます。南吉にとって祭りは、幼くして死に別れた母との楽しい記憶を呼び覚ますものだったのかもしれない。勇ましいことが苦手だったはずの南吉が祭りに心浮き立つ理由は、もしかしたらそんなところにあるのでしょうか。